



Triple Tree Media Information

2026 年 7 月 1 日

2日間にわたる富士公式テストでセットアップを煮詰め、
チーム全員がひとつになって、Juju を全力サポート！



HAZAMA ANDO Triple Tree Racing（以下、チーム）は、2026 年 6 月 30 日（火）・7 月 1 日（水）に富士スピードウェイで開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第 2 回公式テストに参加しました。

今シーズン、すでに全 12 戦中 5 戦が開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権ですが、第 3 戦九州・オートポリス大会が悪天候のために予選のみでキャンセルされ、代替戦として 7 月 17 日～19 日に富士スピードウェイで予定されている『第 3 回瑤子女王杯』の際に、第 3 戦、6 戦、7 戦という形で組み込まれることが発表されました。つまり富士スピードウェイでこれか 2 大会 5 レースが実施されるという、特別なシーズンになったわけです。

今回の富士スピードウェイでの第 2 回公式テストは、今シーズンの行方を占ううえで、かなり重要な意味を持つテストとなることは明らかであり、チームはテストプ

Triple Tree Racing





ログラムに関してドライバー、監督、エンジニアを交えて何度も意見を交わし、入念な準備とともに富士スピードウェイ入りをする事となりました。

セッションは両日とも基本的に午前、午後それぞれ 2 時間、午後の全体セッションは最後に A、B の 2 組に分けてそれぞれ 10 分間の予選シミュレーションができる時間帯が設けられました。

公式テスト初日、Juju とチームは、予定されていた走行プログラムを着実にこなしつつありましたが、走行開始直後から持ち込んだセットアップでは予想以上にマシンが強いアンダーステアを示し、それに対する対応に追われた初日でした。

前後の車高調整による重量バランスの変更やレーキ角の変更、フロント & リヤサスペンションのキャンバー調整、アンチロールバーの強度や前後タイヤ内圧の変更、前後ウィングの角度、ブレーキバランス、クラッチの繊細な調整等、マシンのセットアップには繊細で複雑な要素が絡み合い、ドライバーというセンサーと実際の走行データを組み合わせながら最適解を探す、気の遠くなるような作業が続きます。

元 F1 ドライバーでもある野田英樹監督は、ドライバーからのフィードバックに対してエンジニアが提案するマシンの変更によって、理論的にどういう変化が起こるかをドライバーと確認し、ひとつひとつ丁寧にセクタータイムにおけるセットアップ変更前と後のタイム差を無線でドライバーに伝えます。

低速コーナーが良くなれば、逆に高速コーナーでの挙動が気になるなど、ひとつの問題が解決されることによって、新たな問題が発生するのがマシンセッティングの難しさですが、いくつかあるアンダーステア解消の方法論を、全て一気に変更すると本質的な原因が見えなくなってしまうため、一か所を変更してその変化を確認し、また別の場所を変更しては効果を確認するという地道なデータ収集を続けていきます。焦ることなくデータを積み重ねることが、マシンの理解への最短距離です。設立 2 年目という新しいチームであり、しかも 1 台体制であることでライバルたちに最もハンディを負うのが、このデータ蓄積量であり、Juju と Triple Tree Racing が向き合わねばならない現実です。

初日は、午前、午後の 2 セッションで合計 77 周を走り込み、10 回のピットイン & アウトで様々なトライ & エラーを繰り返しつつ、ベストバランスを探りました。タイム的には午前中のベストが 1 分 25 秒 281、午後が 1 分 25 秒 330 で総合 24 番手にとどまりました。決して満足できるタイムではないにせよ、チームは多くの実践的な

Triple Tree Racing





データを蓄積し、レースに向けて Juju とチームはスタート練習やタイヤ交換の練習を何度もこなしました。

野田英樹監督は、「まだまだ全然足りない。本質的にまったく問題が解決されていないけれど、明日も地道にデータ収集をし、少しでも良いマシンに仕上げてドライバーのパフォーマンスをフルに発揮できる状態で本番レースを戦わせてあげなければ」と語りました。



テスト2日目、午前中のセッションはやや曇り空となり、トラブル車両によって赤旗が出される場面もありましたが、セッション開始 1 時間を過ぎたあたりで気温 27℃、路面温度 36℃というコンディションでした。

Juju とチームは前日同様、着実にテストプログラムをこなすことに集中し、ニュータイヤでのアタックも含め、午前中は 36 周、ベストタイムは 1 分 24 秒 745 で 23 番手。まだマシンはアンダーステア傾向ではありますが、全体的なバランスは着実に向上したといいます。遅いマシンにひっかからず、セクター 1, 2, 3 の自己ベストタイムを並べられれば 15~16 番手に入るタイムであり、実際、上位 16 台は 1 分 23 秒台に並ぶ僅差です。Juju もその中で戦えるパフォーマンスを発揮できました。

午後の最終セッションを前にチームは思い切ったセットアップ変更を施すことを決断し、作業が多かったためにセッション序盤を走ることが叶いませんでしたが、それでも最終的に 32 周をこなし、アタックラップでは、セクター 1 で遅いマシンにコースを塞がれながらも、課題であったセクター 3 でも自己ベストタイムを更新し、中

Triple Tree Racing





古タイヤでありながら 1 分 24 秒 820 をマークすることができました。期待を抱いて最後の各組 10 分間のセッションにニュータイヤを投入して臨みました。

A組の Juju は、ニュータイヤによるグリップ力の向上を想定してリヤのアンチロールバーをややハードにし、16 時 02 分 40 秒にコースイン。ブレーキとタイヤを温めながら前後との間隔を調整し、「しっかりタイヤ温めながらいきましょう！」という野田英樹監督の無線を合図にアタック突入。残り 3 分、セクター1 で 21 秒 011 と自己ベストを更新、セクター2 でも 25 秒 521 で自己ベスト更新、そしてセクター3 でも 37 秒 404 と自己ベストを叩き出し、1 分 23 秒 936 で 22 番手となりました。そして連続アタックでまたしてもセクター1 で 20 秒 966、セクター2 で 25 秒 473 と自己ベストを更新しましたが、セクター3 で 0 秒 5 落としてしまい、タイム更新はなりませんでした。2 日目最終結果は総合 23 番手で今回の公式テストを終えました。



◆ドライバー Juju のコメント

「限られた公式テストなので、レースウィークではできないセットアップや、いろいろな事が試せる最後のチャンスですし、チームといろいろメニューを考えてきて、初日はそれを順調に試すことができました。このテストの前にヨーロッパで BOSS GP にスポット参戦して 2 連勝でしたが、日本で苦戦している原因は何なのか、その違いはどういった部分にあるのかを探る意味での参戦でもありました。700 馬力を超えるマシンでいろいろセットアップを試すことで、逆にスーパーフォーミュラでの今回のテストの参考になるかなと思う部分もありました。初日を終えた段階では、セクター3 が自分としてもマシンとしてもいろいろ課題があって、コースのキャラクターの部分もありますが、他のチームのマシンの動きとの違いを見て、そもそも考え方が違うのかな、あの動きに近づけるためにはどうしたら良いのかなという部分もありました。

Triple Tree Racing





今シーズンが始まってから、ちょっと何かに躓いている感じがあって、少しだけでも改善できれば大きく違うのにと感じていましたし、そのヒントが今回のテストで見つかるかと思っていました。そういった意味では欲しかったデータも取れましたし、思い切ったセットアップ変更もトライできて、タイム的には満足はできないにせよ、内容的には満足できるテストだったと思います。2日目の最後のセッションは、しっくりこなかったセクター3もかなり改善されてきましたし、去年の富士の良い感触も戻ってきたと思います。次の富士のレースに向けて、これからしっかりとデータを解析して良い流れに持っていければ良いと思っています」

◆チーム監督 野田英樹のコメント

「シーズン中盤戦から後半戦にかけて、今回のテストが非常に重要な意味を持つことはわかっていましたし、それだけに多くの課題を持ってテストに臨みました。初日に関しては、アンダーステアの問題が何をやっても改善されず、ややフラストレーションも募りましたが、何が本質的な問題なのかを確かめるまでがテストなので、エンジニアを含め様々な可能性を考え、トライして問題解決に向けてみんなで努力を続けました。そのかいもあって2日目の最後にはバランスも改善され、今後の方向性も見えてきました。もちろんもう少しタイムは短縮したかったのですが、試したかったことはほぼ試せましたし、これから後半戦に向けて、今回得られたデータをしっかりと解析し、それに伴ったタイムの向上ができたと思っています。

今回はFP1、FP2、FP3で試していたことの方向性が芳しくなくて、FP4で方向性をガラッと変えてトライしてみました。それがきっかけをつかむ事となり、次のレースに向けて良い感触がつかめた状態で終わることができたのが救いですね。データは昨日、今日で確実に収集できましたので、あとはそれをエンジニアがどう料理してくれるかなと期待しています。

今回のテストでは、FP1からFP3では、去年とまったく違う方向性のセットアップを試していたのですが、やはり良いところも悪いところもあって、良いところを伸ばしながら、悪いところを消していければかなりのレベルアップが図れると思ってかなり追いかけてはいたのですが、追いかけてきませんでした。それでもFP4で大きな変更をしたおかげで、去年の好調時のフィーリングを取り戻せたので、あまり悲観的にはなっていないのが本音です。2日間を通じてドライバーもエンジニアも、そしてチームスタッフ全員が本当に頑張ってくれましたが、それでも気を引き締め、新たな挑戦に挑んでいきたいと思っています。これからも応援、よろしくお願いします」

◆本件に関する問い合わせ先◆

Triple Tree Racing チーム PR マネージャー：チャールズ・チェン
e-mail: cac@3tree.jp

Triple Tree Racing

